

事例⑫特別支援教育（通常の学級における特別支援教育）

小学校

中学校

高等学校

★ポイント

- 事前に、教職員のニーズや課題を把握し、整理しておくとともに、講師に学校の実態を伝え、「本校の今」に適した内容を学べるようにする。
- 研修で学んだ知識を具体的な事例に生かし、子どもへの理解と支援につなげていけるように、講師との継続的なかわりも含めて、校内体制の整備に努める。

■関連する視点：視点5－参画意識の醸成 視点6－人材の効果的な活用

研修の計画

◇ 目的

講話・演習を通して、通常の学級における特別支援教育についての理解を深める。

◇ 所要時間 ：約 60 分

◇ 方法・形態：講話、演習

◇ 対象者 ：全職員

◇ 事前準備 ：事前アンケート等により、教職員のニーズを把握する。

※外部講師を依頼する場合は、事前に、学校の現状や研修の目的を伝え、研修の進め方等について打ち合わせをする。

【事前アンケート（特別支援教育）】（例）

年月日

- 1 学級の中で気になる子はいますか。
□はい □いいえ □わからない
- 2 その子(たち)のことを学年で話し合っていますか。
□はい □いいえ □どちらともいえない
- 3 その子(たち)について、どのような支援ができていますか。(複数回答可)
□声をかける □課題の量を変える □座席の配慮
□個別指導 □保護者との連携 □()
- 4 より効果的な支援をするためにどんな研修をしたいですか。
□特別支援教育とは □LD・ADHD・高機能自閉症とは
□支援の方法 □困っている子についての相談
□個別の指導計画 □校内体制の在り方
- 5 あなたが今課題として感じていることは何ですか。
()

◇ 展開

内容	概要及び留意点	資料
1 研修目的の確認 (5分)	学校全体で取り組む意識を高めるために、研修の目的や方針等について、管理職から話をしてもらう。	
2 説明・講話 (20分)	特別支援教育の意味と目指す理念、発達障害についての基本的な理解を図る。 (外部講師または特別支援教育担当による説明)	・資料1
3 演習 (個人、グループ) (20分)	気になる子の例(仮想のケース)について、背景や対応を考える ① 困難な状況をトピックとして示し、背景を考える。 ② 困難な状況に合う支援を思いっただけ付箋に書く。 ③ 付箋を貼りながら、各自が考えた支援のアイデアを出し合う。	・付箋 ・ワークシート
4 まとめ (10分)	外部講師または特別支援教育担当から、支援のポイントを説明し、③で出し合った支援を整理する。	・資料2
5 振り返り (5分)	講話・演習を通して、参考になったこと、今後に生かしたいこと等を振り返りカードに書く。	・振り返りカード

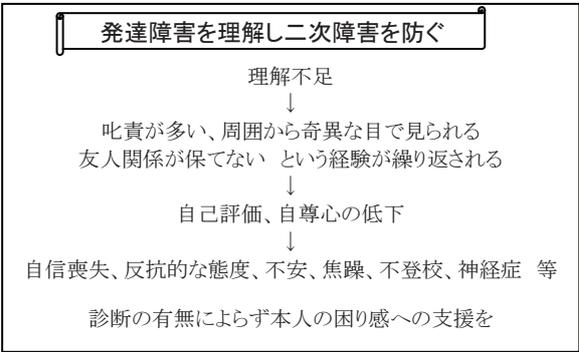
◇ 評価

通常の学級における特別支援教育をすすめるための基本的な考え方が分かり、「気になる子」への支援や対応を考えることができたか。

研修の進め方

説明・講話 — 特別支援教育、発達障害とは —

○特別支援教育の意味や留意点について説明します。



演習 — 「気になる子」の解釈と支援 —

○「気になる子」(例) について背景と対応を考えます。

【資料2 「気になる子」への理解と支援】

課題がいつも提出できないAさんの場合

～考えられること～

- ◇課題が出ているということや内容、提出期限がわかっていない
- ◇期限に向けてスケジュールが立てられない
- ◇どのように取り組めばよいかわからない
- ◇課題に対する知識や理解が不足している
- ◇課題にかなりの時間と労力がかかる
- ◇全部終わらないと提出できない

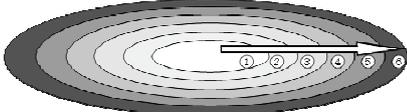
*** 単に怠けや無気力ではないかもしれない**

研修の初期段階では、「特別支援教育」や「発達障害」に関する基本的な考え方や基礎的な内容についての理解を図ることが大切です。

【資料1 「特別支援教育」についての理解】

《校内支援体制構築の過程》

- ①教職員が発達障害に対する理解を深め特別支援教育の必要性を認識する。
- ②支援が必要な生徒に対する見方が変わる。
- ③教職員間の共通理解が生まれる。
- ④指導の協力体制ができる。
- ⑤他の支援が必要な生徒への教職員の接し方が変わる。
- ⑥全生徒に対して授業やHR等における指導が変わる。



「気になる子」(仮想のケース)の特性や対応について考える場面を設け、支援のポイントについて確認しましょう。

こうしてみてもはどうでしょう・・・

- ☆一斉に課題を指示したあと個別に声をかけて確認する
- ☆付箋に期限と内容を書いて渡し、ノート等に貼らせる
- ☆全体を把握させ、期限までにどれくらいのペースで取り組めばよいかを確認する
- ☆具体的に何をを使って調べるか、どこを参考にしたらよいかをアドバイスする
- ☆予め期限までを何段階かに区切って目標を決めて取り組ませる。進捗状況を確認する意味でも何度かに分けて提出させ、最後にはできたところまでを提出させる

期待される振り返り

- ・特別支援教育の考え方や障害の特徴について知ることができました。
- ・知らなければ「変だな」で見過ごしていたかもしれない。生徒への理解が深まりました。
- ・子どもへの適切なかわり方のヒントを得ることができました。

工夫

- 学んだ知識を実践につなげるには・・・
- ①事例研究会を定期的実施し、子どもの状況や指導に関する情報を共有します。
 - ・「気になる子」について話し合う。
 - ・共同で「個別の指導計画」を作成する。
- ②校内支援につながるテーマで話し合います。
 - ・例えば、「教室を飛び出す」など、担任以外の協力が必要な場面を想定し、その対応についてグループで考える。

【振り返りカード】(例)

★今日の研修は、今後にどう生かせようですか。

- 1 今日の講話は (□わかった □わからなかった)
- 2 他の子の対応にも使えそうな内容があった。()
- (例えば)
- 3 支援のコツを考える原則が学べた。()
- ()
- 4 今日の感想や収穫 ()
- ()
- 5 今後、学びたいこと ()
- ()

参考資料・情報

- ・高橋あつ子著「一から始める特別支援教育『校内研修』ハンドブック」 明治図書 2010年
- ・栃木県総合教育センター「通常の学級における特別支援教育」平成21年
- ・栃木県総合教育センター「高等学校における特別支援教育」平成22年